

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リエゾン横浜センター南		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 16日	~	2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44 (回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年 10月 16日	~	2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日	~	年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	(回答数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数での活動の為、お子様一人ひとりに寄り添った細やかな支援や対応ができる	お子様の気持ちが崩れてしまった際にはスタッフが一対一で丁寧にヒアリングし、状況に応じた切り替え方を提案することなど個別で細やかな支援を行うことのできる体制づくりを意識している。	スタッフ全員が臨機応変に対応できるようミーティングやケース会議を積極的に行い支援の質の向上を目指していく。
2	一つの運動課題に対して段階的なアプローチを行い、スタッフからその過程を具体的にほめることで運動に対して自信を持って取り組む事ができている	普段のレッスンの様子や保護者様とのコミュニケーションの中から自信を持っていない運動課題を拾い上げ、お子様それぞれの特性に合わせた支援を意識している。	レッスンを通してスタッフからのお子様に対するポジティブな声掛けを増やしていき、レッスン終了後スタッフ間でフィードバックを行うことで支援の幅を広げ、現在よりもさらにお子様に自信を持って取り組む事の出来る運動をふやしていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフの専門性及び経験値の差	特に若手の職員が多く、それが強みと同時にベテラン職員との経験値の差が出てきやすい。専門性や考えに相違点が増えてしまう。	毎回ミーティングや定期的な研修会を開き、スタッフ間での細かい支援方法の確認や実際のケースを想像した実践研修などを通して、より実態に即した関わり方をスタッフ全員で覚えていく。
2	他事業所や関係機関との連携	他事業所との連携場面が少なく他事業所に通われているお子様のご様子など事業所そのものの情報に乏しい感じる。	他事業所にケース会議等で赴くとともに顔の見える関係性を構築する。また今まで以上に密に関係機関との連携をとり、それぞれの専門性を生かした多職種連携が行える体制作りを行う。
3			